

2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年8月7日





- 2027/3月期は「本格加速への助走期間」と位置づける現中期経営計画の2年目。売上は順調に進捗。一方、EBITDAマージンの進捗はまだ加速に至らず
- 今回、原材料調達の先行不透明感低下を受け、通期見通しを開示。売上は過去最高を、調整後EBITDAも前年比14%増を想定
- 2027/3月期1Q実績は対前年同期比増収増益。期初はホルムズ海峡問題を懸念も、影響は限定的にとどまる

2027/3月期 通期見通し

売上高 **100** 億円

- 対前年同期 +9.0億円 (+10.0%) **過去最高更新**
- 中計目標 (28/3期120億円) の進捗は順調

調整後
EBITDA **22.1** 億円

- 対前年同期 +2.5億円 (+13.2%)

調整後
EBITDA
マージン **22.1** %

- 対前年同期 +0.7pp
- 中計目標 (28/3期30%) 進捗度 △7.9pp

2027/3月期 第1四半期

売上高 **21.1** 億円

- 対前年同期 +4.2億円 (+25.0%)
- 対1Q見通し +1.1億円 (+5.9%)

調整後
EBITDA **3.5** 億円

- 対前年同期 +1.6億円
- 対1Q見通し △0.5億円

調整後
EBITDA
マージン **16.6** %

- 対前年同期 +5.9pp
- 対1Q見通し △3.4pp

新規受注 **40.6** 億円

- リードタイムの大きい、大型案件受注

1. 2027年3月期第1四半期 決算概要

- 1Qは前年比で増収増益。売上高は期初想定を超過達成し、当初懸念した中東情勢緊迫化の影響は限定的に留まる
- 分野別には、医薬・バイオ分野でほぼ想定通りに推移。一方、機能材料分野は半導体関連材料などの需要拡大を追い風に、売上上振れを牽引
- EBITDAは期初想定にやや未達。売上は順調ながら、将来を見越した戦略的費用（中長期的な継続案件獲得を見据えた費用発生や投入工数増加など）などが影響

(百万円)	2025/3期	2026/3期		2027/3期			前期比較（1Q）	
				1Q				
		1Q	通期	実績	見通し	差異	差異	変化率
売上高	8,178	1,694	9,093	2,118	2,000	+118	+423	+25.0%
機能材料	3,002	755	3,056	894	800	+94	+138	+18.4%
医薬	3,508	730	3,927	579	550	+29	△150	△20.7%
バイオ	1,667	208	2,109	643	650	△6	+434	+208.1%
営業利益	771	△9	1,024	51	95	△43	+60	—
経常利益	929	△11	1,028	48	90	△41	+59	—
経常利益率	11.4%	△0.7%	11.3%	2.3%	4.5%	△2.2pp	+3.0pp	—
当期純利益	737	△11	766	41	63	△21	+52	—
調整後EBITDA*	1,761	182	1,951	352	400	△47	+169	+92.9%
調整後EBITDAマージン	21.5%	10.8%	21.5%	16.6%	20.0%	△3.4pp	+5.9pp	—

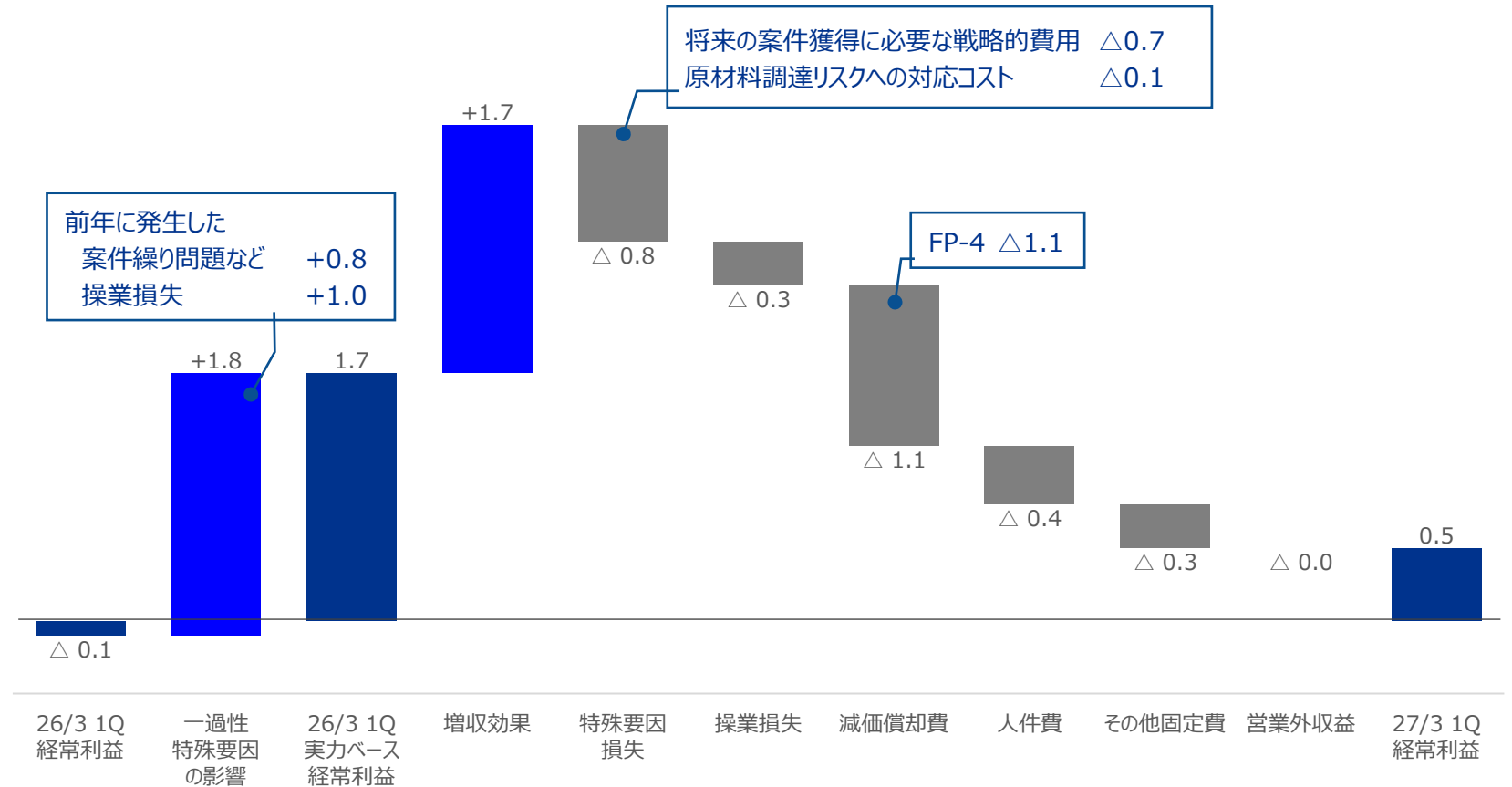
* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し

(百万円)	2025/3期				2026/3期				2027/3期
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1Q	2 Q	3Q	4Q	1 Q
売上高	1,405	1,916	1,932	2,924	1,694	1,679	2,219	3,499	2,118
機能材料	798	769	665	768	755	654	666	979	894
医薬	395	703	927	1,482	730	686	893	1,617	579
バイオ	211	442	339	673	208	338	659	902	643
営業利益	85	△8	246	448	△9	8	154	870	51
経常利益	87	△0	398	445	△11	22	153	863	48
経常利益率	6.2%	△0.0%	20.6%	15.2%	△0.7%	1.4%	6.9%	24.7%	2.3%
当期純利益	56	△1	283	398	△11	12	104	660	41
調整後EBITDA	283	200	611	665	182	197	373	1,197	352
調整後EBITDAマージン	20.1%	10.5%	31.7%	22.8%	10.8%	11.8%	16.8%	34.2%	16.6%

- 1Qの経常利益は前年比0.6億円増加。前年にあった一過性特殊要因（案件繰り問題や生産計画調整に伴う作業量増や稼働差損）は解消も、戦略的費用などと相殺
- 要因別にみると、売上順調に伴う増収効果はあったものの、継続的な案件獲得を睨んだ戦略的費用発生、さらにはFP-4の償却増などの影響は吸収できず
- 戦略的費用は、個別案件における競争的対応実施の影響など。トップラインの本格加速を仕掛けるための先行投資と位置づけ

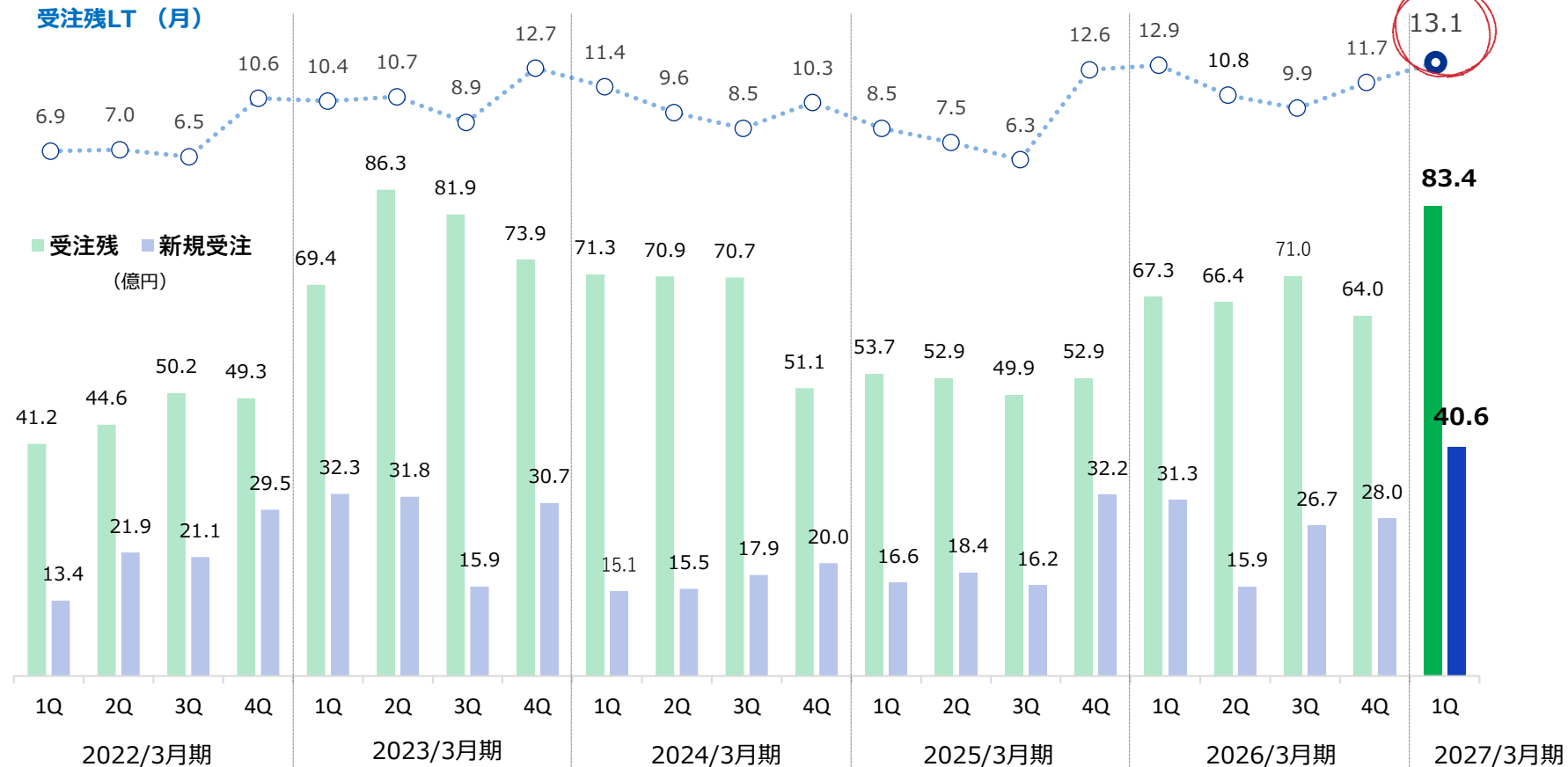
2027/3期1Q経常利益 増減益要因分析

(億円)



- 1Qの新規受注額は40億円。医薬領域で足の長い大型案件獲得もあり、2023/3期より4年ぶりに四半期ベースでの過去最高を更新。2Q以降は大型案件の影響一巡となるが、概して定常的な受注水準の引上げが継続
- これを受け、受注残存リードタイムも過去最長を更新。足の長い案件の増加は、短期的な業績のブレ抑制に貢献と期待。なお、1Q末時点の受注残は過去2番目の水準となる83億円を積上げ
- 見込生産品目についても、前期3Qの新棟稼働（D棟）以降、高水準な需要を維持
- 前期より注力してきた営業力強化が徐々に成果を出し始める

新規受注、受注残及び受注残存リードタイムの推移



※1 顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず
 ※2 受注残LTはその時点で今後の納期に至る平均残存期間で算出

- 総資産は前期末比で微減。債権債務の解消、償却の進捗などが影響
- 前期末に在庫となっていた大型案件は当1Qに予定通り出荷。一方、棚卸資産は前期末比で増加となったが、これは2Q以降に出荷を控える製品/仕掛品在庫の積増しが影響
- 1Q末時点の自己資本比率は66.4%。依然として高水準ながら、財務レバレッジは上昇傾向

財政状態の推移

(百万円)	2025/3期	2026/3期	2027/3期 1Q	前期末差異
流動資産	7,475	7,811	7,556	△254
現預金	2,385	2,173	2,452	+279
売上債権	2,407	1,743	1,326	△416
棚卸資産	2,541	3,290	3,594	+303
固定資産	12,676	13,832	13,530	△301
建設仮勘定	3,646	—	—	—
繰延税金資産	1,191	1,099	1,074	△24
総資産	20,152	21,644	21,087	△556
負債	6,632	7,563	7,076	△487
有利子負債	3,119	3,596	3,319	△277
未払金/未払税	753	390	347	△43
長期前受収益	1,767	1,995	1,914	△80
純資産	13,520	14,080	14,011	△69
負債純資産合計	20,152	21,644	21,087	△556

2. 2027年3月期 決算見通し

- 3カ月前（2026年4月頃）では「リスクを十分に折り込めなかった」状況に対し、現時点（2026年7月）の安定的な調達状況と価格動向を踏まえ、「2027年3月期通期見通し」を開示

2026年4月頃（3カ月前）

石油化学産業の主要原料である原油やナフサ等は中東地域への依存度が高く、中東情勢の悪化にともなうホルムズ海峡の閉鎖や、物流の停滞なども相まって、**サプライチェーンが混乱**

【調達環境】

「そもそも原材料が購入できるか分からない」極めて不透明な状況。サプライヤーから購入制限が課され、**生産スケジュールを何度も調整**

【価格面】

溶剤関連を中心に連日上昇、当社の業績に与える影響額を**合理的に算出・想定することすら困難な状況**

2026年7月頃（現在）

原油等の調達は、中東以外の地域からの輸入が増加したことに加え、物流をはじめとする流通上の目詰まりも徐々に解消に向かう。これにより、**サプライチェーンの混乱は沈静化**へと向かう見通し

【調達環境】

全体としては**安定的に調達**できる状況。ただし、一部資材では、未だにサプライヤー側での原材料調達が困難な品目もあり、楽観視はできない

【価格面】

価格は上昇後、**高止まりの傾向**にあり、今後下降に転じても、混乱前の水準には戻らない見通し

- 2027/3期は、中期経営計画の2年目として、前期に引き継いだバトンを実確な成長へと繋ぐ、いわば「本格加速への助走期間」の位置づけ
- 業績は前年比増収減益を想定。新棟稼働により売上成長は加速するものの、減価償却費や人件費等の先行投資負担により、利益は一時的な足踏みの見込み。ただし、より重要視するEBITDAは13%増を想定
- 事業領域別では、新棟稼働の効果により、バイオ分野は年間を通して伸長。機材は引合い好調を追い風に着実に拡大。医薬分野も底堅く推移し、全体の成長を支える見通し

(百万円)	2024/3期	2025/3期	2026/3期	2027/3期 見通し	前年比較	
					差異	変化率
売上高	9,154	8,178	9,093	10,000	+906	+10.0%
機能材料	2,714	3,002	3,056	3,300	+243	+8.0%
医薬	4,609	3,508	3,927	4,100	+172	+4.4%
バイオ	1,829	1,667	2,109	2,600	+490	+23.3%
営業利益	2,081	771	1,024	910	△114	△11.2%
経常利益	2,094	929	1,028	890	△138	△13.5%
経常利益率	22.9%	11.4%	11.3%	8.9%	△2.4pp	—
当期純利益	1,493	737	766	640	△126	△16.5%
調整後EBITDA	2,867	1,761	1,951	2,210	+258	+13.2%
調整後EBITDAマージン	31.3%	21.5%	21.5%	22.1%	+0.7pp	—

* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

- 第2四半期以降においても、対前年比で増収減益を想定。
- 第1四半期は、前年から着手していた案件の売上計上もあり、好調なスタート。第2・第3四半期は、第4四半期の売上加速に向けた仕込みの期間として、第1四半期と同水準で推移し、第4四半期に売上が加速する見通し
- 事業領域別では、医薬分野で4Q偏重型で推移する一方、バイオは新棟稼働の効果により年間を通じて平準化が進捗する見込み

(百万円)	2026/3期			2027/3期			前期比較（2-4Q）	
	1Q	2-4Q	通期	1Q	2-4Q	通期	差異	変化率
売上高	1,694	7,398	9,093	2,118	7,881	10,000	+483	+6.5%
機能材料	755	2,300	3,056	894	2,405	3,300	+104	+4.5%
医薬	730	3,197	3,927	579	3,520	4,100	+323	+10.1%
バイオ	208	1,900	2,109	643	1,956	2,600	+55	+2.9%
営業利益	△9	1,033	1,024	51	858	910	△175	△16.9%
経常利益	△11	1,040	1,028	48	841	890	△198	△19.0%
経常利益率	△0.7%	14.1%	11.3%	2.3%	10.9%	8.9%	△3.2pp	—
当期純利益	△11	777	766	41	598	640	△178	△22.9%
調整後EBITDA*	182	1,769	1,951	352	1,857	2,210	+88	+5.0%
調整後EBITDAマージン	10.8%	23.9%	21.5%	16.6%	23.6%	22.1%	△0.3pp	—

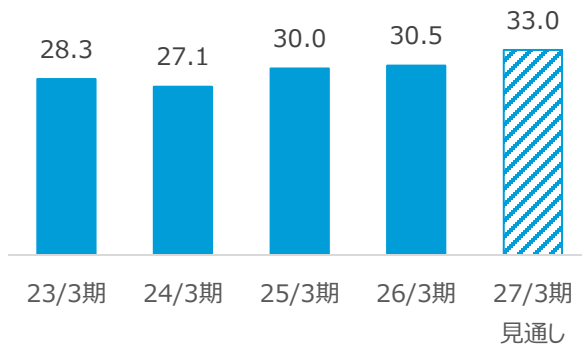
機能材料分野

【受注状況】

量産ステージの医療関連材料に加え、半導体関連材料など引き合い好調

【売上見通し】

直近数年はトップラインの成長スピードが鈍化傾向にあったが、新棟の稼働に伴い、今後は成長が加速する見込み。引き続き受注状況も好調を維持しており、トップライン成長を強力に牽引する見込み



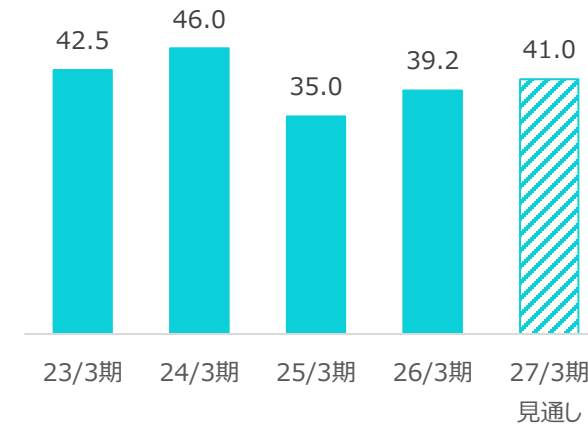
医薬分野

【受注状況】

量産・開発ステージ案件を中心に引き合い堅調

【売上見通し】

開発ステージの案件強化や高薬理活性原薬製造の実績積上げなど、中期経営計画最終年に向けた「仕込みの時期」と位置づけ。トップラインは過去2年、拡大基調にあるものの、他の2分野と比較すると、その成長ペースは緩やかなものにとどまる見込み



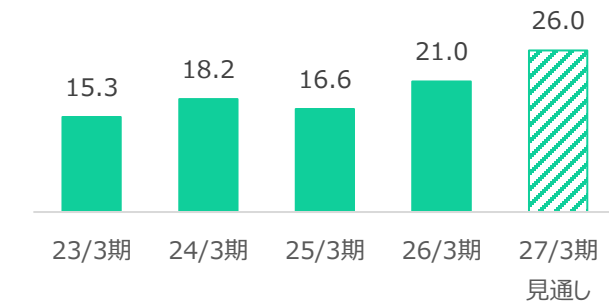
バイオ分野

【受注状況】

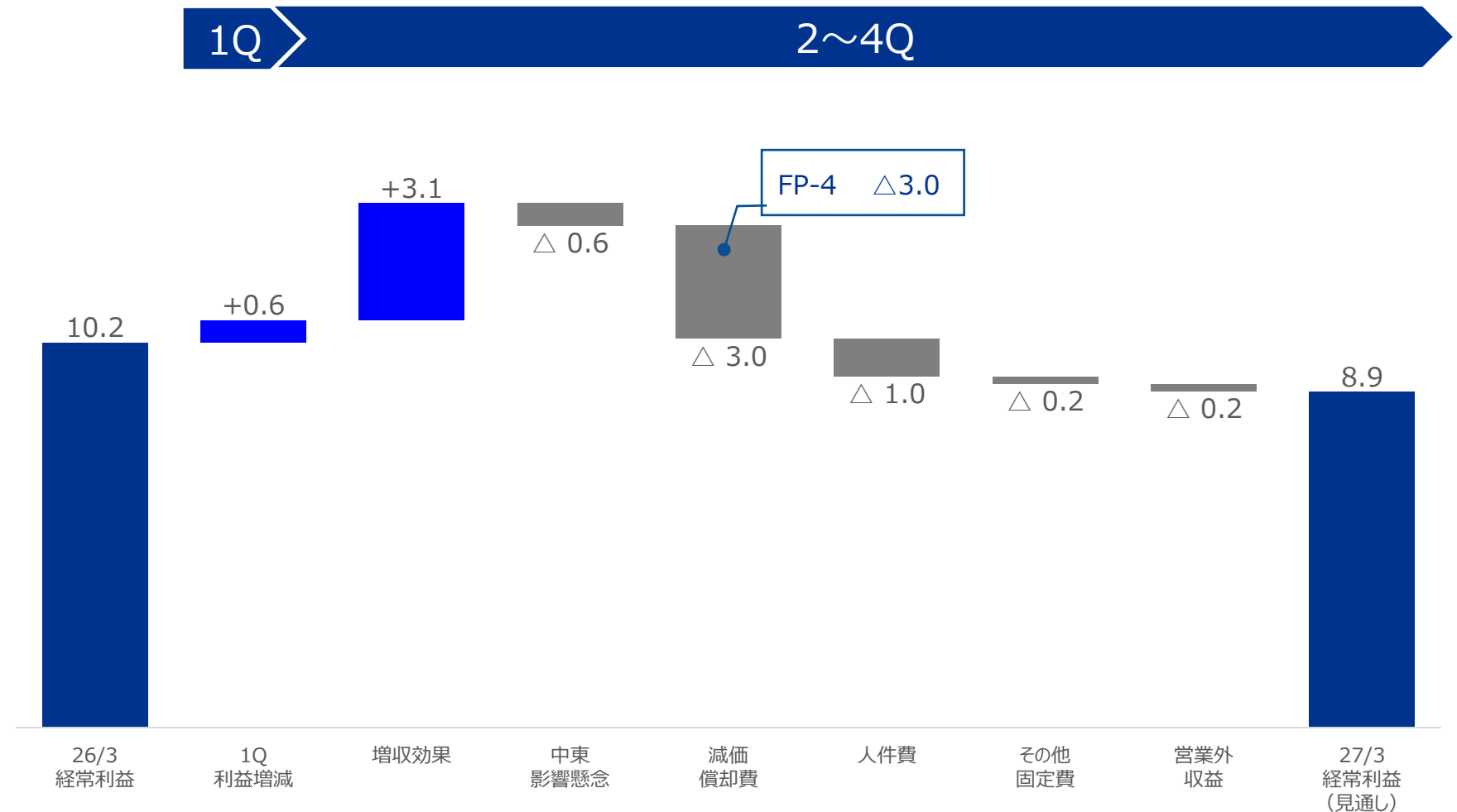
開発ステージ案件など引き合い好調

【売上見通し】

新棟（D棟）の期初フル稼働により、2期連続で20%超の大幅な増収を見込む。また、大型の開発ステージ案件の確実な売上計上に加え、これらを一時的なものに留めず継続案件へと育成することで、売上基盤のさらなる底上げを図る

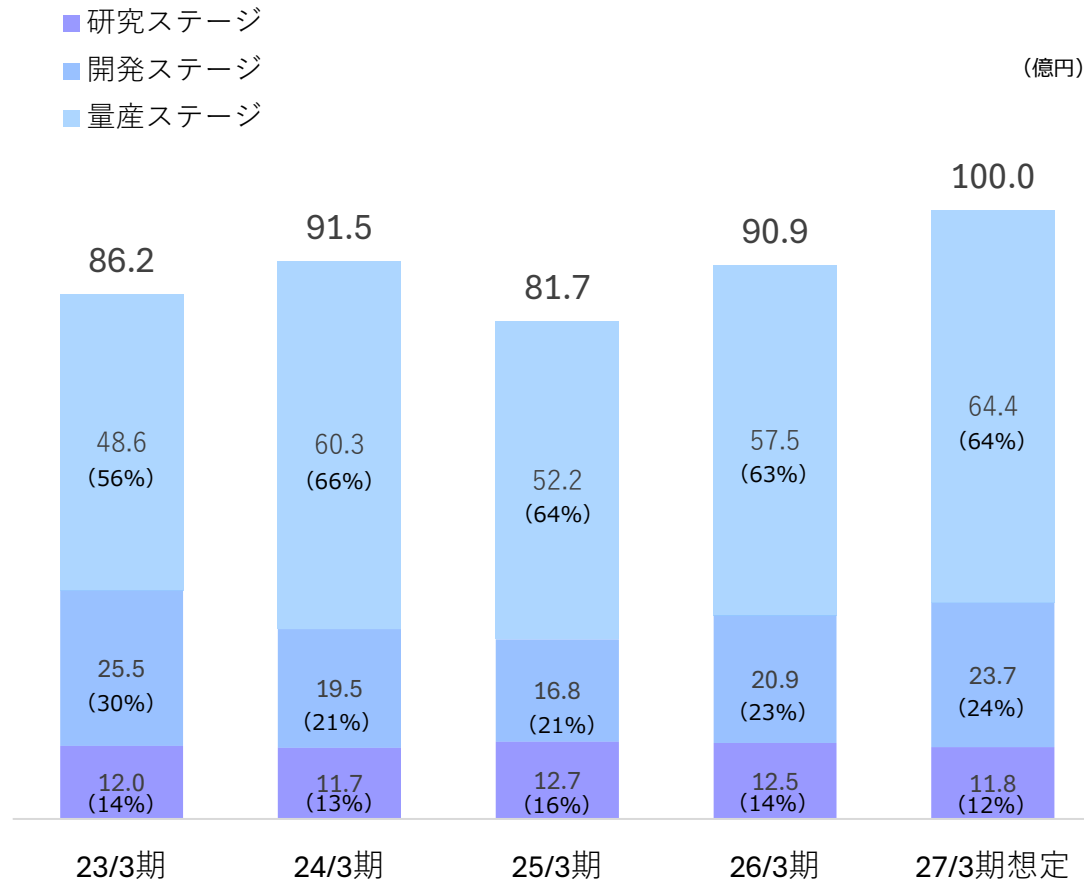


- 通期で経常減益を予想する主因は、先行投資となった新棟（FP-4）の償却増。さらに、人件費や中東影響なども重石となり、増収効果では吸収できないと想定
- ただし、営業活動強化もあり受注は堅調な推移を見込む。これらの効果は2Q以降徐々に発現する見通しながら、現時点では予想への織り込みは保守的にとどめる
- なお、中東情勢の影響は最小限に抑制できているものの、原材料費の価格転嫁のタイムラグや原材料高の価格転嫁には未だ不透明さも残る。現想定はこれらのリスクも勘案した保守的なスタンス



ステージ別売上見込

- 量産ステージは新棟の稼働や旺盛な引き合いを背景に、機材およびバイオ分野が牽引し、増収を計画。一方、医薬分野は「仕込みの時期」に位置づけ、横ばいでの推移を想定
- 開発ステージは3分野ともにミドルサイズの案件を継続的に受注。将来の量産化に向けた「種まき」を着実に進めている状況
- 研究ステージは急激な成長はないものの、堅調な売上を維持し、開発ステージへの移行に繋げる方針



【量産】対前年比 **+6.9億円**

- ✓ D棟が期首から稼働
- ✓ 半導体関連需要の増加

【開発】対前年比 **+2.8億円**

- ✓ 3分野で伸長

【研究】対前年比 **△0.7億円**

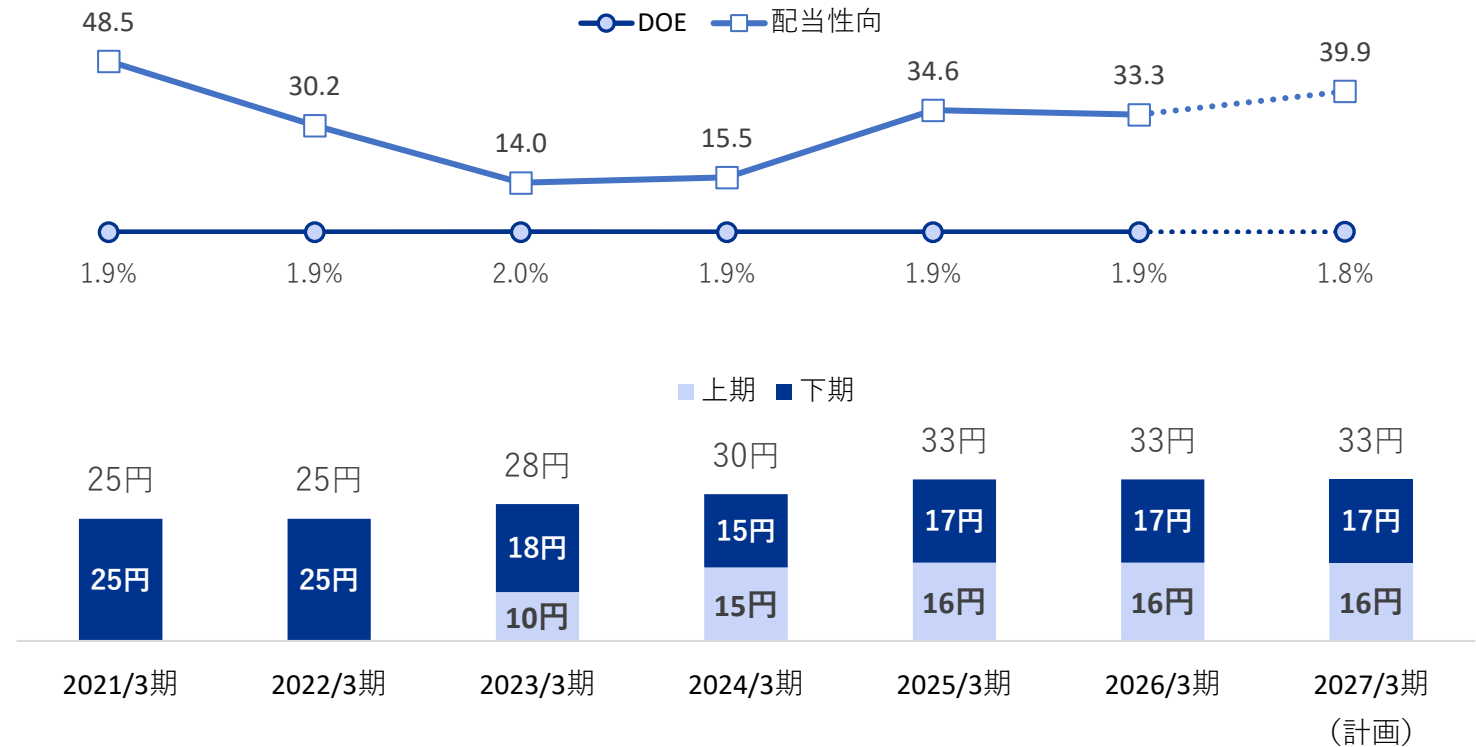
- ✓ 堅調に推移

- 開示を見送っていた期末配を17円と計画。既の開示済であった中間配16円と併せ、2027/3期は年間33円配とする計画。
- 年33円配は前期比据置きとなり、安定配当実施方針は堅持。現見通し基準でDOEは1.8%を想定

配当見通し

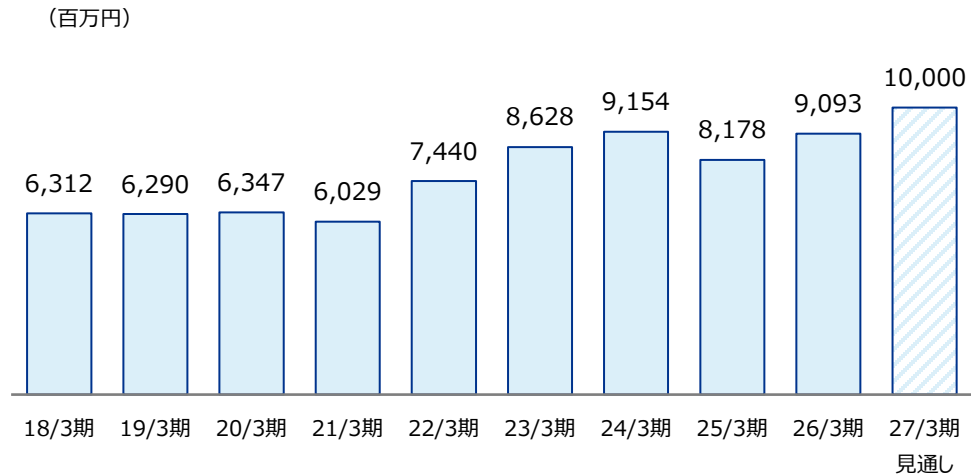
配当方針

企業価値拡大に向けた投資余力を総合的に勘案し、業績状況に即した安定配当を継続実施

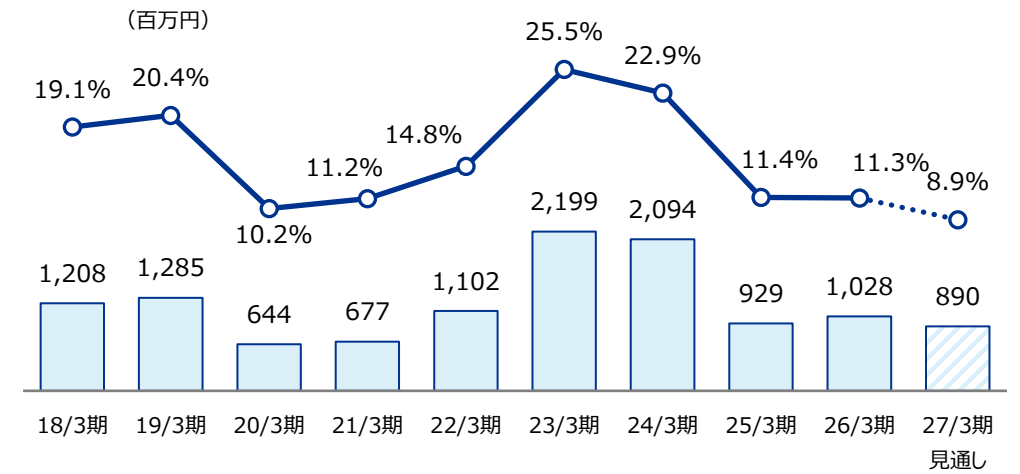


3. APPENDIX

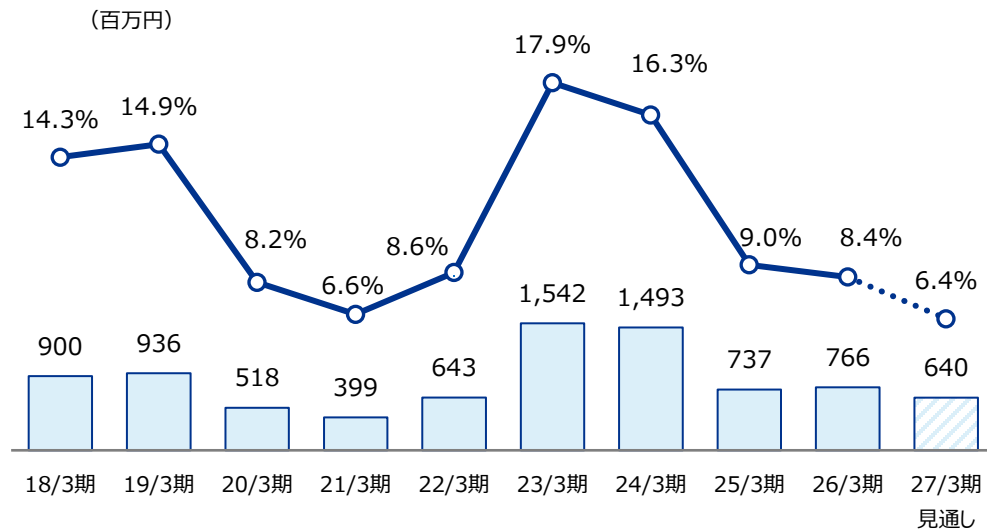
売上高



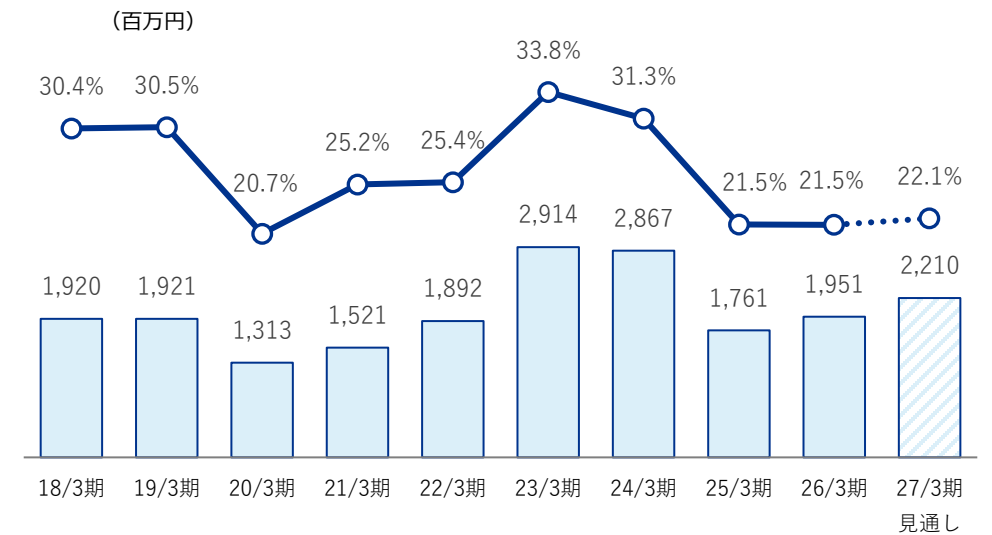
経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率



調整後EBITDA・調整後EBITDAマージン



*調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900（代表） knc-ir@kncweb.co.jp